



# 神小たより

阿賀野市立神山小学校  
学校だより 10月号  
保護者・地域版  
H29. 10. 11

ホームページアドレス <http://kamiyama-es.agano.ed.jp/>



## 「郷土の誇り 近代図書館の父 市島 春城」

校長 鈴木 正彦

涼しい秋風に、高く澄んだ空。思わず大きく深呼吸したくなるような、気持ちのよい季節となりました。9月22日（金）には、快晴のもと全校「五頭登山」が行われました。登山は1年生～6年生で構成される、いなほ班で登りました。

リーダーの6年生を中心に、どの班も協力しながら五ノ峰まで登り切ることができました。初めての五頭登山となった1年生も、自分の力でがんばって登り切りました。頼もしい神山小学校のみなさんです。

ボランティアとしてご協力いただきました、アクロス山とスキーの会様、阿賀野消防署様、保護者・地域の皆様、誠にありがとうございました。心より感謝いたします。

（学校だより五頭登山感想特集号もご覧ください。）



話は変わりますが、「市島春城」という名前を知っていますでしょうか。市島春城、本名謙吉といい、江戸時代の末・万延元年（1860年）、旧水原地区の大きな商家に生まれました。子どものころは地元で過ごしましたが、大きくなってからは、東京で暮らすようになります。春城は、東京帝国大学に入学しますが、様々な理由から卒業を前に退学。

大隈重信につかえ、早稲田大学を作るのに力を尽くしました。明治35年（1902年）、43歳の時早稲田大学初代図書館長となります。そこで、春城は図書館作りに熱心に取り組み、以下のようなすぐれた業績をあげました。

- ①一人ですんでいた本を、図書館に集めて大勢の人が読めるようにした。
- ②大切な本が傷んだり無くなったりしないよう、図書館で保管するようにした。
- ③図書館に来た人の希望に叶うよう、いろいろな種類の本を数多く集めた。
- ④数多くの本がどこにあるか分かるように、分類して目録にした。
- ⑤手に入りにくい本を大勢の人が読めるように、印刷・出版をして広めた。

これらは、今では当たり前になっている「だれでも」「自由に」「読みたい本」が読める（借りられる）という図書館を最初に実現させたもので、これによって、市島春城は「近代図書館の父」とたたえられています。（引用 春城会より）

神山小学校の図書館を始め、阿賀野市内にもいくつかの図書館がありますが、これらの図書館の基本となる形を作った市島春城。市島春城のおかげで、神山小学校のみなさんは、当たり前のように図書館を利用できていると言っても言い過ぎでは無いでしょう。

このようなすばらしい業績を残した人が、みなさんのふるさとの阿賀野市で生まれ育ったのです。

季節は秋。この時季は暑さも一段落し、気温も18℃前後の日が続きます。実は、人が物事に集中しやすい気温が18℃前後と言われており、まさに10月は本を読むのに最適の時季です。ぜひ、神山小学校の図書館を大いに利用して、たくさんの本を読み、心の栄養補給をしてほしいと思います。さて、今日はどんな本を借りますか？